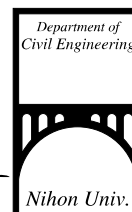


シビル メール ニュース



これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ (<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方は購読を希望される方は、必要事項（卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレス）明記の上、mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jpで購読申し込みをしてください。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

平成 19 年度文科省科学研究費補助金の交付内定

理工学部の文科省科研費が内定いたしました。土木工学科教員の内定状況は下表のとおりです。

種目	資格	氏名	研究課題名
基盤研究	教授	岸井隆幸	タイ国への区画整理技術移転に関する実証的研究
基盤研究	教授	安田陽一	砂防施設に適用可能な魚道に関する研究
萌芽研究	教授	野村卓史	気象要因を反映した地域の音環境解析に関する研究
萌芽研究	教授	前野賀彦	広域洪水被害対策としての公的洪水保険の導入に関する研究
若手研究	専任講師	小林義和	間隙流体が液状化地盤の大変形挙動に与える影響に関する研究
若手研究	専任講師	高橋正行	階段状水路におけるNappe flowの空気混入流特性

平成 19 年度行事予定が決定

平成 19 年度理工学部土木工学科の主な年間の行事予定が下記のとおり決定いたしました。

開催日	行事
6/17 (日)	CSTオープンカレッジ (駿)
6/23 (土)	理工学部後援会総会
7/15 (日)	駿河台入試フォーラム
7/19(木)~8/1(水)	前期試験
7/29 (日)	オープンキャンパス (船)
8/25 (土)	後援会地方父母懇談会
9/8 (土)	大学院入試(第1・2期)
9/12 (水)	編入学・学士入試
10/21 (日)	AO入学試験 (学部)
11/2(金)~11/4(日)	学部祭 (シビルエキスポ)
11/4 (日)	船橋キャンパスウォッチング
11/17 (土)	附属校・指定校推薦入試 (B方式)
12/1 (土)	学術講演会
12/16 (日)	附属校推薦入試 (A方式)
1/19(土)~1/20(日)	大学入試センター試験
1/25(金)~2/7(木)	後期試験
2/11 (月)	一般入試(A方式), 校友子女入試
3/5 (水)	一般入試(CA方式)
3/8 (土)	大学院入試(第2・3期)
3/25 (火)	卒業式・学位記伝達式

オープンカレッジが新設されました

オープンカレッジは今年から新たに導入されることになった、日本大学の付属高生のために行われる理工系という分野、並びに理工学部、学科を深く知るための1日です。

イベントは高校生のニーズに応えるべく、下記の3つの方向性（グループ）をもっております。

- ① 決定グループ・・・・・・・・理工系に進学したい→希望学科が決まっている
- ② 多分グループ・・・・・・・・理工系に進学したい→希望する学科を「さがしている」
- ③ 未確定グループ・・・・・・・・1・2年生や理工系に進学するか未確定の生徒

各種イベントでのミニ講義が下記の通り行われます

<p>FOC（オープンカレッジ） 6/17(日)</p> <p>駿河台1号館5階151教室</p> <p>ミニ講義A (12:00~12:30) 教授 岸井隆幸  まちづくり・地域づくり・世界づくり ：美しい故郷のために</p> <p>ミニ講義B (12:30~13:00) 教授 安田陽一  水生生物の遡上、降下に配慮した魚道の 流れの解明について ー土木技術のチャレンジャー</p>	<p>NF（入試フォーラム） 7/15(日)</p> <p>駿河台1号館5階151教室</p> <p>ミニ講義A (12:50~13:20) (14:00~14:30)  教授 島崎敏一 シビルエンジニアの取り組み</p> <p>ミニ講義B (13:20~13:50) (14:30~15:00)  専任講師 山敷庸亮 国際河川における流域管理と地球環境 監査システム (GEMS/Water)</p>
<p>OC（オープンキャンパス） 7/29(日)</p> <p>船橋校舎11号館1階1113教室</p> <p>ミニ講義A (11:20~11:50) (13:00~13:30)  教授 野村卓史 風の猛威に立ち向かう土木技術</p> <p>ミニ講義B (11:50~12:20) (13:30~14:00)  教授 松島眸 自然界の環境修復機能で 湖沼の水質を守る！</p>	<p>CW（キャンパスウォッチング） 11/4(日)</p> <p>船橋校舎14号館4階1441教室</p> <p>学科紹介 土と木と水と、自然と密接なお付き合い 自然環境との調和と環境改善を目指して</p> <p>公開講義 (11:00~11:30)  専任講師 高橋正行 流水デザイン ー治水・利水+環境改善へー</p>

日大土木 Who's who

今月号から日大土木とともに歩んだ偉人を紹介するコーナーを新設いたしました。
記念すべき第一回は、日大土木開校時 1920 年の土木科長であり、第二代日本大学工学部長でもある**茂庭忠次郎博士**です。



No. 1

氏名：茂庭 忠次郎（もにわちゅうじろう）

専門分野：下水道工学

略歴： 1880年（明治13年）仙台に生まれる
1904年（明治37年）東京大学卒業
同年 東京都下水道設計調査主任就任
1914年（大正3年）下水道敷設事務所長
1917年（大正6年）下水道敷設事務所退職
1918年（大正7年）内務省土木局入省
1919年（大正8年）工学博士
1920年（大正9年）日本大学講師就任
1939年（昭和14年）日本大学工学部長就任
1950年（昭和25年）他界（享年69歳）

竹泉という雅号をもつ日本画家の父を持つ茂庭忠次郎は、明治 13 年、名家の次男として生まれた。維新後の西欧文化風がそろそろ仙台にも届き始めているとはいえ、武家の厳しい封建制度を受け継ぐ家に強い反発を感じ、二高卒業と同時に強い反対の中で上京する。東大で中島博士が技師長を兼務していた東京市の下水道設計調査主任として設計に参画したのが実務の始めである。

明治 40 年には名古屋市の水道技師となるが、赴任早々下水道の計画をめぐって合流式か、分流式かで技師長と衝突し、内務省の断を仰ぐ結果となる。大正 3 年には下水道敷設事務所長になるが、大正 6 年に市長が議会と衝突し辞任すると退職し、翌年、内務省土木局（現在の国土交通省）へ入省し、8 年余りの官僚時代を迎える。12 年には政府代表として視察を兼ねて各種の国際会議に出席のため西欧諸国をまわり、帰国後は復興局で関東大震災の復興事業に尽力する。仕事が一段落すると職を辞し、昭和 25 年に 69 歳で他界するまで顧問業として第三の人生を過ごすこととなる。この顧問業で関係した都市は上水道 55、下水道 25 に達し、済南、青島など大陸にも及んでいる。

一方日大土木には、設立時の大正 9 年から土木科長として講師を引き受けた。茂庭は内務省の俊秀と言われただけあって、講義も格調高く、他の講師は茂庭の下に参集した内務省の気鋭の現役技術陣であった。5 年後の昭和 14 年、第二代日本大学工学部長に就任し、時局の悪化、太平洋戦争勃発という困難な時期を乗り越えた。（詳細はニューズレター第 3 号にも掲載されております）



旧駿河台 1 号館校舎

最近の教員活動状況



竹澤三雄教授と後藤浩専任講師が5月23日～5月25日までギリシャ・コス島で開催された第4回河川流域管理国際会議（River Basin Management）において論文発表のため出張しました。なお、この国際会議にて両者に対し、Wessex Institute of Technologyより、Hromadka Award 2007が授与されました。

竹澤：Mitigation of flood hazard in Japan

後藤：Attitude of residents in the Tokyo Bay area toward flood hazards



山崎淳教授が5月18日～5月25日に国際構造コンクリート連合技術理事会ならびに総会・シンポジウムに出席のためクロアチア国ドブロヴニク市に出張されました。



久保田進教授が5月13日～5月20日まで米国・ニューオーリンズで開催されたCoastal Sediment 2007において次の論文発表のため出張しました。

BEACH STABILIZATION WORKS AGAINST WIND BLOWN SAND ON BEACHES



野村卓史教授と長谷部寛助手が5月22日から24日にかけて東京で開催された日本計算工学会主催、第12回計算工学講演会において、次の論文を発表しました。

野村：市街地の風況解析のための六面体有限要素メッシュ生成法
長谷部：剥離を伴う流れに対する analytical wall function の有効性の検討



小林義和専任講師が、3月30日から4月2日にかけて、デンマーク・コペンハーゲンで開催された IOMAC2007(International Operational Modal Analysis Conference 2007)で“Three dimensional seismic tomography for existing concrete structures”について論文発表を行いました。

この会議は、構造物の振動などによる情報から構造物の物性などを求める技術に関する国際会議で、論文内容は、地盤探査などで使われている弾性波トモグラフィを既存のコンクリート構造物の健全性診断に応用したものです。研究の特徴としては、弾性波トモグラフィを三次元空間で行うための波線追跡において、有限要素法などで利用されているアイソパラメトリック要素を導入することによって、そのアルゴリズムを簡略化したことです。これは、飛鳥建設株式会社技術研究所との共同研究の成果であり、飛鳥建設技術研究所のHP(<http://www.tobi-tech.com/lab/AD-S.htm>)に DaCS-3D として掲載されています。また、3月25日から3月29日には、オランダ・デルフト工科大学を訪問し、現在研究を進めている粒子法を含むメッシュフリー法による解析技術に関する意見交換を行いました。

元日本大学教授 伊沢倫一郎先生が「日光杉並街道保護基金」に500万円を寄付され、栃木県より感謝状を授与されました。（読売新聞に掲載）